

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 24 年 2 月 16 日 (2012.2.16)

【公開番号】特開 2010-157929 (P2010-157929A)
 【公開日】平成 22 年 7 月 15 日 (2010.7.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-028
 【出願番号】特願 2008-335427 (P2008-335427)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/00 (2006.01)

G 0 6 F 3/12 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 1/00 1 0 7 Z

G 0 6 F 3/12 K

H 0 4 N 1/00 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 23 年 12 月 27 日 (2011.12.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

複数種類のインタフェースを介して外部装置を接続可能なデータ処理装置であって、
 前記データ処理装置でエラーを検知する検知手段と、
 前記外部装置が接続されているインタフェースを特定する特定手段と、
 前記特定手段により特定されたインタフェースに応じて決定される、前記検知手段で検知されたエラーを回復させるための情報を前記外部装置に対して送信する送信手段と、
 を備えることを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 2】

前記特定手段により LAN インタフェースが接続されていると特定した場合、前記送信手段は、前記 LAN インタフェースを介して接続されている外部装置に、前記エラーを回復させるための情報にアクセスするためのアドレス情報を含む第 1 のエラー復帰情報を送信することを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 3】

前記特定手段によりローカルインタフェースが接続されていると特定した場合、前記送信手段は、前記ローカルインタフェースを介して接続された外部装置に、前記エラーを回復させるための情報にアクセスするためのアドレス情報を含む第 1 のエラー復帰情報と、前記データ処理装置に記憶されたマニュアル情報を含む第 2 のエラー復帰情報とを送信することを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 4】

前記特定手段により前記外部装置がローカルインタフェースに接続されていると特定した場合、前記データ処理装置をエラー復帰情報を記憶する記憶装置として、前記ローカルインタフェースを介して接続された外部装置に認識させる制御手段を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 5】

前記特定手段により前記外部装置が接続されるインタフェースを特定できない場合に、前記記憶装置に記憶されたエラー復帰情報を印刷する印刷手段を備えることを特徴とする

請求項 4 に記載のデータ処理装置。

【請求項 6】

前記データ処理装置に着脱可能なメモリが接続されているかどうかを判別する判別手段と、
前記判別手段により前記メモリが接続されていると判別した場合、前記第 1、第 2 のエラー復帰情報を書き込む書込み手段と、
を備えることを特徴とする請求項 3 に記載のデータ処理装置。

【請求項 7】

前記複数種類のインタフェースの優先順位を決定する決定手段をさらに備え、
前記特定手段によって複数のインタフェースが接続されていると特定された場合に、前記送信手段は、前記決定手段によって決定された優先順位に従って前記複数種類のインタフェースのいずれかを選択して前記エラーを回復させるための情報を送信することを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 8】

前記ローカルインタフェースは、USB インタフェースであることを特徴とする請求項 3 または請求項 4 に記載のデータ処理装置。

【請求項 9】

前記メモリは、USB メモリ、メモリカード、フラッシュメモリのいずれかであることを特徴とする請求項 6 に記載のデータ処理装置。

【請求項 10】

複数種類のインタフェースを介して外部装置を接続可能なデータ処理装置におけるデータ処理方法であって、

前記データ処理装置でエラーを検知する検知ステップと、

前記外部装置が接続されているインタフェースを特定する特定ステップと、

前記特定ステップにより特定されたインタフェースに応じて決定される、前記検知ステップで検知されたエラーを回復させるための情報を前記外部装置に対して送信する送信ステップと、

を備えることを特徴とするデータ処理方法。

【請求項 11】

請求項 10 に記載のデータ処理方法をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上述した課題を解決するために、本発明は、複数種類のインタフェースを介して外部装置を接続可能なデータ処理装置であって、前記データ処理装置でエラーを検知する検知手段と、前記外部装置が接続されているインタフェースを特定する特定手段と、前記特定手段により特定されたインタフェースに応じて決定される、前記検知手段で検知されたエラーを回復させるための情報を前記外部装置に対して送信する送信手段とを備えることを特徴とする。